

## 第2回 川之江地区まちづくり推進会議 協議概要

開催日時	平成26年2月13日(木) 19時30分～21時15分		
開催場所	四国中央市川之江文化センター4階 視聴覚室		
公開／非公開	公開	傍聴者	(一般) 3名 (報道関係者) 1名
出席者氏名			
(委員)	秋山明生, 石川定男, 石川由加, 大西誠治, 梶原洋充, 小城千樹 中田邦志, 長野光正, 松村英典, 真鍋 博, 森川 隆, 矢野 強		
(事務局)	石川晋二, 岩崎恒明, 岸 明法, 篠原智美, 薦田仁志		
(支援事業者)	ランドブレイン(株)広島事務所 山田, 鈴木		
会議の内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委員長あいさつ</li> <li>3. 公共施設配置の考え方について</li> <li>4. 跡地の活用について (議事) <ul style="list-style-type: none"> <li>* 第1回～第3回まちづくりワークショップ開催報告</li> <li>* 事業イメージ図について</li> <li>* 意見交換</li> <li>* 庁内プロジェクトチームの方向性について</li> <li>* 都市再生整備計画事業(地方都市リノベーション事業)の活用について</li> <li>* その他</li> </ul> </li> <li>5. 閉会</li> </ol>			
協議の概要			
<b>1. 議 事</b> <b>(1) 第1回～第3回まちづくりワークショップ開催報告</b> <b>(「平成25年度まちづくりワークショップだより」&lt;資料1-1&gt;)</b> <b>(「まちづくりワークショップ各班意見まとめ」 &lt;資料1-2&gt;)</b> <p>○第1回ワークショップ(10/24) テーマ「川之江地区のために大切なこと」 基本計画のアクションプランから「優先的に取り組むべき事業」について意見交換を行った。「将来のまちの姿」として基本計画で「統合整備」と位置付けられた5つの公共施設(公民館、児童館、考古資料館、老人憩いの家、老人つどいの家)の配置について意見交換を行った。</p> <p>○第2回ワークショップ(11/28) テーマ「公共施設の使い方を考えよう」 これまでの検討の中で統合整備すべき施設として「交流施設」「文化・観光施設」「公園・広場」が整理された。今回のワークショップではそれらの施設で“どんなことがしたいか”“どのように過ごしたいか”“必要な施設や部屋は何か”について意見交換を行った。</p> <p>○第3回ワークショップ(1/9) テーマ「公共施設配置を考えよう」 これまでの検討結果から、公共施設配置案を2案提示し、それぞれの案について様々な立場(小学生、中高生・若者、子育て世代、壮年層、高齢者、商店街・利用者)から、「使いやすい場所か」「通いやしやすい場所か」等メリット・デメリットについて検討評価を行った。その結果から総合的に判断し、2案のうちどちらの案が最適かの意見交換を行った。また選ばれた案について機能集約をしない敷地のあり方を意見交換した。</p> <p style="text-align: center;"><b>(支援事業者より説明→異議なし、承認)</b></p>			

**(2) 「事業イメージ図」について**  
**(「事業イメージ図」**

**<資料2>**

これまでのワークショップで把握した住民意向を踏まえ、「公共施設配置の考え方」、「跡地の活用」について市の庁内プロジェクトチームが作成した事業イメージ図を提示し、その考え方等について説明を行った。

(説明概要)

**【住民意向から読み取れる事業】**

\* 基本計画で必要な統合整備機能と整理された3つの機能に対する事業提案

「地域交流施設」……川之江会館エリアに地域交流センター

「文化・観光拠点」……高原ふるさと館エリアに高原ふるさと館と考古資料館を統合した博物館

「公園・広場」……城山公園エリアにスポーツ&レクリエーション施設

川之江公民館エリアに交流広場、ポケットパーク、駐車場

JR浜田踏切付近にポケットパーク

\* 歩行者の安全対策、各拠点間のルート化、歩行空間の高質化に基づいた道路整備

\* 案内サイン整備

**【庁内プロジェクトチームとして提案する事業】**

\* 川之江保育園改築

\* JR川之江駅前広場修景改修

**(事務局より説明→イメージ図について意見交換)**

**(3) 事業イメージ図について意見交換**

A委員	市道破砂子西新町線から平成28年度まで事業がある塩谷小山線まで、堤防沿いにつながるとうい。
B委員	紙のまち資料館は現在のまま資料館として継続する予定なのか。
事務局	紙のまち資料館は基本計画において現状維持と位置付けられている。
B委員	紙のまち資料館は新しい施設であるが、このエリアの整備全体を考えた場合、資料館として残すべきなのか。機能を別に移転し、紙のまち資料館の建物は他の機能で使うと良いのではないかと思う。
C委員	商店街の人たちの意見では、川之江公民館エリアに機能を集約した方がよいとの意見が多数ある。できれば、川之江公民館エリアで整備してもらえば、イベント等で活用できるし、助かる。色々な人と交流できるメリットもあると思う。
D委員	若者がこのまちに帰ってきたいくなるまちづくりが必要。地域交流センターで三世代が交流できると思うが、もう一ひねりあるとういと思う。核家族が多くなってきているが、三世代で住む家庭が増えるよう、三世代住宅がどこかにできると良い。  5ヶ年で整備を行い、地域交流センターにおいて、若者が帰ってきてにぎわうとうい、工夫があるとよい。
E委員	ワークショップ参加者としてはワークショップでの意見が反映されており、イメージ図の配置でいいと思う。  イメージ図のように道路が整備されれば回遊する人が増えると思う。  商店街の活性化については、地域交流センターからからJR川之江駅までの新しい人の流れの中で、商店が増える可能性もあるのではないかと意見もあった。

	道路が整備されれば川之江地区が変わってくるのではないかとのイメージがある。
F委員	カラー舗装の仕様はラスタ栄町のようなものか。
事務局	色は未定であるが、きれいだなと思ってもらえることと、ここを歩くと次の拠点に行けるというように感じてもらうことが必要と考えている。 また、一方通行の道路については、路肩を歩きやすくすることを考えている。
F委員	道路のセンターラインを消すと説明があったが、車の運転手から見るとセンターラインがあった方が運転しやすい。スピード抑制には、カラー舗装のほうが効果はあると思う。 地域交流センターに行く際、商店街からでは途中でアーケードが途切れることになるので、商店街から屋根をつなげられると、雨の日でも移動しやすいのではないかとの意見がワークショップであった。 城山公園進入路美装化とあるが、ここは、地方祭の太鼓台が通ることとなる。太鼓台を通すと舗装が痛むことがある。太鼓台の運営協議会と協議するとよい。
G委員	今、まちで起きている問題に対応するのか、20～30年後の将来に向けての対応なのかによっては、まちづくりの出発地点が違う。 プール跡地については、都市公園法の規制や一部が国有地という問題があるが、これが解消できるなら更なる集客施設が整備できるの可能性があるのではないか。 産官学が利用できる施設をつくることも、まちの活性化に必要なことと考えられる。例えば、大学医学部の総合的な拠点づくりをするなど。 大きな船が着く港や四国の交通の要所であるという市のメリットを活かして、拠点づくりができれば新しいまちづくりがスタートできると思う。
議長	現状型のまちづくりがいいのか、それとももっと大きな別の視点で検討するのか、まちづくりには2つの考え方があるということか？
G委員	そのとおり。公民館そのものの位置付けについても別の場で検討されていると聞いている。それとの連携も必要と思う。 20年後、30年後も続けていけるような新しいまちづくりを念頭において検討すべき。
H委員	カラー舗装だけでは歩行者の歩きやすさにとって十分ではない。スクールゾーンのように路側帯部分に色を塗ることや、コミュニティ道路を作ることも速度制御につながる。 体育館の駐車場が不足するため追加整備するということだが、現在の川之江会館の駐車場も同じく不足。地域交流センターとして施設を集約すればさらに不足することが想定される。施設間での駐車場の連携も必要と思われるため、動線も考えてほしい。
I委員	川之江会館に集約することは賛成しているが放課後児童クラブの心配があった。放課後児童クラブが学校内に整備されるのであれば安心。 歩道のフラット化、歩道の拡幅、カラー舗装、案内サイン等によって商店街周辺での車の速度抑制ができるとよい。現在商店街で車両制限をしているが、さらに制限するなど歩行者優先の度合いが高まると子どもと歩きやすく人通りもできると思う。 地域交流センターまでアーケードがあるともっと歩きやすくなると思う。 子育て世帯は車を使って施設にアクセスするため、駐車場が十分整備されるとよい。 公共施設については高齢者や子育て世帯が使いやすいようエレベーターの整備も必要だと思う。
J委員	地域交流センターでは、無理に平屋でなくともよいと思う。 物産を売るような施設があってもよいと思う。

	どこから着手していくか市が考えて行くと思うが、早く整備が進むとよい。
K委員	ここ30年以内に災害が来ると言われている。災害が実際に起きたときどうするかという検討が大切だと思う。また避難拠点となる避難場所をもう一度見直すことが必要。世代の交流は立派な施設がなくともできると思う。小学校の空き教室を使うなどして子どもと高齢者が交流できる身近で自然な機会づくりがあるとよい。
議長	この会議で結論を出すことは難しいが事務局の考えをいただきたい。
事務局	庁内プロジェクトチーム会議で検討したい。

#### (4) 庁内プロジェクトチームの方向性について

庁内プロジェクトチーム内において、地域交流センターを「川之江会館エリア」に整備するのか「川之江公民館エリア」に整備するのか現在は両論ある旨を説明。今後、検討を重ね方向性を調整していく。

#### (5) 都市再生整備計画事業（地方都市リノベーション事業）の活用について （「地方都市リノベーション事業パンフレット」 <資料3>）

川之江地区まちづくり計画を実施するにあたり、目指すべきまちの将来像実現に向けたまちの課題の早期解消をめざし、有利な財源として該当性のある国の交付金事業制度を説明。

（制度の概要及び留意事項）

- \* 既成市街地において都市構造の再構築（リノベーション）を図ることが目的
- \* コンパクトシティの考え方による整備対象の地区要件に制限がある
  - ・人口集中地区
  - ・鉄道、地下鉄駅から半径1km範囲内、またはバス、軌道の停留所、駐車場から半径500m範囲内（ピーク時運行本数が片道3本以上）
  - ・公共用地率15%以上
- \* 地方都市リノベーション推進施設の整備が必須事業
- \* 補助率は5割
- \* まちづくりのコンセプト、シナリオが重要

（事務局より説明→質疑応答は以下のとおり）

議長	リノベーション推進施設の5つの分野のなかで全ての施設を作らないといけないのか。また、限度額はあるか。
事務局	いずれかの施設を作ればよい。また、特に限度額の定めはない。
議長	できる限り市民の意向を踏まえて、前に進めていっていただけるとよい。

## (6) その他

### (支援事業者よりお知らせ)

\* 第4回まちづくりワークショップ(2/25)の内容について

- ・イメージ図のようなまちができた時、どのようなまちづくり活動(ソフト事業)を行っていくか検討する。

### (事務局よりお知らせ)

\* 今後の検討イメージ

- ・今回の意見を持ち帰り庁内プロジェクトチームでさらに検討

↓

- ・次回まちづくり推進会議に実施計画(素案)として提案

↓

- ・実施計画(素案)のタウンコメント実施

↓

- ・実施計画(案)を都市計画審議会に諮問

↓

- ・都市計画審議会の答申を受け実施計画成案

以上

(注) この会議録中の委員表記(A委員、B委員・・・)は発言順にアルファベットを付しており、次回以降の会議録における委員表記と整合するものではありません。